

2016

Vol.27

8月10日

花水木

ハナミズキ

Kawaguchi Municipal
Medical Center

特集

臨床研修医

p ② ~ p ③

目次

- p ④ 病院の取り組み：院内職員研修
- p ⑤ 部署紹介：小児科
- p ⑥ 病院事業管理者・院長 就任ごあいさつ
- p ⑦ KMMC Report：七夕コンサート
- p ⑦ 医師の交代のおしらせ
- p ⑧ 四季の移ろい：表銀座
- p ⑧ ミニギャラリー3ヵ月



川口市立医療センター
イメージキャラクター
「みみたース」



基本理念

市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

臨床研修医

1. どのようにして研修医制度が発足したか

日本では第2次世界大戦まで医学部を卒業すると同時に医師免許が与えられ、その後は各大学の医局で指導が行われるドイツ式の医学教育が一般的でした。

1946年、GHQにより医師国家試験とインターン制度が導入され、医師をめざすものは卒業後無資格のまま1年間の研修を受け、その後国家試験を受けて医師免許を取得することになりました。しかしこの制度は多くの問題点を抱えていました。インターン制度では臨床の診療科を順々に回って研修します。しかし、インターンは医師ではないので処方箋を書くことも許されず、研修といっても実質的には各科を見学する程度で給料はなく、立場・生活ともに非常に不安定な存在でした。

1960年代になると、このような制度に対する医学生の不満がいわゆるインターン闘争につながりました。そこで、インターン制度を廃止し、卒業と同時に国家試験を受けることになりました。卒後研修希望者には「手当てを出す」「診療各科を研修する」「期限は2年」を条件に、卒後研修が行われることになりました。しかしこの制度は研修を義務化しないものであり、研修医の手当ては支給されるようになったものの、相変わらず研修医の生活は不安定なものでした。そこで2003年に新しい研修医制度が発足しました。

2. 現在の研修医制度

国家試験に合格した医師は原則として5年間の研修を受けます。前期の2年間は初期研修、後期の3年間は後期研修といわれています。後期研修は現在見直しがなされており、詳細はまだ煮詰まっていないので、ここでは初期研修を紹介します。初期研修は一部の例外を除いて必ず受けなければならないとされています。「臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけることのできるものでなければならない。」と厚生労働省が定めています。当センターの初期研修も、この方針に基づいて計画的に実施されています。当院では毎年20人程度の研修医に診療に従事しながら、臨床実践の診療能力を身につけてもらっています。以前は卒業後、すぐに自分が志望する診療科で研修し専門性を追求していました。これは自分の専門性を高めることには役立ちますが、市民が求める「何でも診てくれる医師」とは異なるものでした。現在は医師としての基盤を作る初期研修終了後に、自分が志望する科で後期研修を開始します。

3. 研修のようす

ここでは当センターの初期研修医を例に、研修の様子を紹介します。2年間で研修する診療科と期間はこの図のようになっています。

内科	救急科	小児科	外科	産婦人科	地域医療	精神科	選択
10ヶ月	3ヶ月	2ヶ月	2ヶ月	2ヶ月	1ヶ月	1ヶ月	3ヶ月

「選択」と書いてある期間には自分が研修したい科を選んで研修します。実際に日々どの様に研修をしているかを記してみます。

初期研修医は、指導医、上級医のもとで診察を行います

研修医という名称ですが医師免許が与えられている医師ですから、外来で市民の皆さんの診療をしたり、病棟では受け持ち医となって診療をしています。また各種の検査を行ったり、手術にも参加します。さらに受け持ちの患者さんについて指導医たちに方針を説明したり、指示を受けたりします。



救急外来を受診される患者さんにも対応するほか、救命センターに運ばれる重症の方々の診療も行います。といっても、まだ一人前の医師のように色々なことが何でも上手にできるわけではありませんので、市民の皆さまには安心して診療を受けていただけるように、研修医だけで診療をすることは当センターでは認めていません。さらに日頃の研修の成果を院内の発表会や院外の学会や研究会などで報告しています。

24時間、経験することのすべてが学びの場

病院でのいろいろな行事にも参加します。院内で行われる各種の勉強会や諸会議にも参加し、リクリエーション（病院旅行やたたら祭り、ボーリング大会など）にも加わって色々な職種の方々とも交流を図り、社会人としてのマナーやたしなみも身につけます。



2年間を通じて医師として必要な知識、技術のみでなく、態度や習慣も身につけてもらえるような研修を目指しています。幸い当センターで研修を受けている研修医は優秀で仲良しです。そして素直に指導を受け入れてくれます。これからも市民の皆さまには研修医と一緒に育てていただけるようにご協力をお願い申し上げます。また不具合や失礼な点がありましたら、ぜひお聞かせください。今後の研修に活かしてまいります。

院内職員研修

今年度、クオリティマネジメント室が医療の質安全管理室と名称が変更され、従来業務に加え、院内研修全般も管轄することとなりました。そこで当センターで行われている職員向けの研修について簡単に紹介したいと思います。

当センターで行っている職員向け研修の基本的考え方は、医療者として、あるいは病院で働く者として知っておくべきことをみなが共有し、実践できるようにすることです。医療職（医師、看護師、技師等）の専門性の高い事柄はこの研修の対象ではありません。

研修方法は大きく分けて2種類あります。一つは全職員を対象としている講演会、もう一つは経歴年数や職位などで層別して行っている層別研修となります。

1. 講演会

医療安全と感染管理については、実は医療職全員に法律で受講が義務付けられています。その他倫理、栄養管理、褥瘡管理、緩和ケアなども対象として行っています。講演会は基本1回1時間程度で実施しますが、勤務体制の特徴で全職員が一同に集まれるわけではありません。そのためビデオ撮影も行い、このビデオを後日、数日間にわたって上映し、できるだけ多くの職員に見てもらおうようにしています。

2. 層別研修

新人、入職3～5年、8～12年、管理職、非常勤職員、異動事務職員などに区分し、それぞれの対象者に受講してもらいます。ここで言うことは、病院として目指している「質の高い医療を安全に提供する」ために、病院の仕組みとして行うべきことを、それぞれの立場で理解してもらうための研修です。部署の管理運営方法、コミュニケーションの重要性・取り方、業務の標準化の方法と

いった内容で、グループワークなどや実践的サポートを通じて行っています。入職後、数年間に1回程度の研修を受講します。さらに3～8年目の職員と対象に、職場改善を目指した「改善能力養成講座」も開始しました。

3. その他

上述2つが基本ですが、実際に他にもいくつかの研修パターンがあります。日常的に使用頻度が高く、技術向上が望まれる機器や器具の使い方や、少人数で話し合うことで効果が得られる事柄などは人数が多くなるとなかなか実行できません。そこで昼休みの時間を使い、ランチョンセミナーとして食事をしながらの勉強会という形で行っています。

また、今年度からはeラーニング*を用いた研修も予定しています。これはだれでもいつでもどこでも受けることができることを目指しています。時間制約の多い医療職には大事なことです。

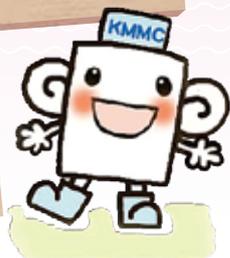
このように多岐にわたる研修を受けることは職員にとって負担ですし、企画する私たちも大変ですが、少しでも職員が興味をもって受講してもらえるよう工夫しています。そしてその結果、患者さんが安心してより質の高い医療をうけられることにつながると考えています。

*eラーニング…おもに、インターネットを利用した学習形態のこと。



小児科

部署紹介



小児科は、新生児集中治療科（NICU）が担当する出生直後の乳児以外の、すべての小児の内科的疾患を担当します。対外的には、小児科・NICU科を合わせて、日本小児科学会専門医研修施設、かつ研修支援施設でしたが、さらに埼玉県の後期専門医研修基幹施設になりました。小児科常勤医15名（うち小児科専門医8名）と、NICU常勤医8名（うち小児科専門医4名）が勤務し、県立小児病院や大学病院に準じた若手医師の研修ができる科として評価されたのです。以下は小児科のみについて記します。

小児科は健診から人工呼吸の必要な重症者まで多彩な診療をします。当科は2次医療を担当するので、開業医の先生方が1次診療をされ、さらに検査や入院が必要な際に、当科の出番が生じます。

小児科医は全身を診ることができないと務まりません。午前中の一般外来に加え、午後は専門外来を行っています。小児循環器、小児神経内科、発達障がい診療、小児内分泌、小児腎臓、小児アレルギーなどに、各分野の専門医が担当し、また、発達障がい診療のために非常勤の臨床心理士5名・

言語聴覚士1名も勤務しています。

循環器は川口市の小中学校心臓健診の2次健診を担当し、内分泌は成長障がいに対して年間50例以上の検査入院を、アレルギーは常時食物アレルギーの負荷試験を行っています。発達障がい診療は市外を含めた近隣の発達障がいの疑いのある子のほとんどが当科に紹介されます。また、発達障がい診療に関連して、小中学校の普通学級・特別支援学級・特別支援学校、幼稚園・保育園・市役所・保健センター・児童デイサービス・授業補助員の方々と発達障がい勉強会を毎月開催しています。

入院は、一般病院小児科の中では、非常に多彩な症例、より重症な症例に対応しており、若手医師と中堅医師のチーム制で担当しています。NICU科・小児外科・救命救急センターの後方病棟の役割もあり、重症者のベッドはしばしば満床になるのが悩みです。

当科は、患者さんの立場に立ち、地域の医師の方々や社会資源（市役所・保健センター・保健所・学校等）の方々と連携を深めて、しっかり仕事をしていきたいと考えております。

ごあいさつ

病院事業管理者
大塚 正彦



この度川口市病院事業管理者を拝命しましたので、ご挨拶をさせていただきます。

川口市立医療センターは「市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します」の基本理念のもと、地域の基幹病院として総合力を兼ね備えた、専門性の高い医療を提供しております。

近年、医療の高度化が進み、さらに低侵襲な治療が求められており、当センターでも外科系各診療科で鏡視下手術を導入し、さらに血管内治療等、高度であるとともに患者さんに優しい治療に積極的に取り組んでおります。また短い入院期間であっても、一人一人の患者さんが心の安らぎを感じて頂けるような優しい医療を提供するため、多職種協働によるチーム医療に力を入れています。

その他当センターは教育機関としての機能も有しており、臨床研修指定病院として初期研修医の育成や看護学生の実習、新人看護師の教育等に取り組んでおります。どの分野であっても初めに受けた教育が、その後の職業人としての大きな礎になると思いますので、極めて重要な使命として受け止め、教育活動に全職員で取り組んでいます。

今後とも当センターが地域医療にさらに貢献できるように努力し、患者さんに安全で質の高い医療を提供し、職員にとっては働き甲斐のある職場環境を整備して参りたいと存じておりますので、皆様のご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

院長
賀屋 仁



安全で質の高い医療は 患者の皆様と共に

この度、川口市立医療センター院長を拝命いたしましたので、ご挨拶させていただくとともに今後の抱負を述べさせていただきます。

当センターは、病院の基本理念である「市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します」に基づいて運営しています。

医療水準を高め維持していくためにより高度な機器を随時導入し、それらを使いこなすための職員研修を充実させます。また初期臨床研修医研修の他、看護学生、薬学部学生、栄養科学学生、救急救命士等の研修を通して、これからの医療人教育に尽力いたします。

患者の皆様にとって環境に優しい病院を目指して計画的に施設を改善し、職員全員が皆様に思いやりのある態度で対応できるよう教育体制を整えます。

私達は、県南地域の基幹病院として、患者さんやそのご家族の皆様と共に歩んでいきたいと思っています。そのために患者の皆様には適切な治療を提供し、その際その治療方針を理解していただけるよう丁寧な説明を心がけてまいります。ご家族の皆様にも可能な限り一緒にご支援、ご協力をいただければと思います。

今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

七夕コンサート

7月7日(木)午後5時から、毎年夏恒例となっている七夕コンサートが正面待合ホールで開催され、入院患者さんやご家族の方々、職員など約160名の聴衆が集まりました。



コンサートは、長年当センターのボランティア

コンサートに携わっていただいている石井英子さんの進行により、ピアノの伴奏に合わせて、コーラス、テノールの歌唱が披露され、この日に備えて勤務終了後に練習を重ねてきた職員有志も合唱とハンドベルで参加し、最後は「たなばたさま」を全員で合唱して終了しました。

また、正面玄関や中央待合ホールには笹が置かれ、患者さんたちが願いを込めた短冊や色とりどりの七夕飾りを飾り付ける姿も見られ、コンサートを盛り上げていました。

医師の交代のお知らせ

新任



オオサキ コウイチ
大崎 公一

6月1日付
精神科 医長
精神科医としてお役に立つことができよう頑張ります。



タムラユ ミエ
田村友美恵

7月1日付
新生児集中治療科 医師
お子様が安心して帰宅できるよう診療させていただきます。



ヒラモト ユウキ
平本 悠樹

7月1日付
消化器外科 医長
消化器を専門に医療に従事してまいります。



モモセ マサミチ
百瀬 匡亨

7月1日付
消化器外科 医師
妥協のない医療を目指します。よろしくお願いいたします。



セキネ タカコ
関根 速子

7月1日付
乳腺外科 医師
乳腺外来医として治療のお力となれるよう頑張ります。

退任

石井絵莉子
4月30日付
産婦人科 医師

徳田 裕二
5月31日付
救命救急センター 医師

分島 葉子
6月30日付
小児科 医師

村越 未希
6月30日付
小児科 医師

宮原 宏幸
6月30日付
新生児集中治療科 医師

野秋 朗多
6月30日付
消化器外科 副部長

江藤誠一郎
6月30日付
消化器外科 医師

杉原 哲郎
6月30日付
消化器外科 医師

四季の移ろい

表銀座

表銀座ってなんのことか解らない人がほとんどと思います。東京銀座の表通りではありません。ここで言う表銀座とは北アルプスの縦走ルートを示します。なぜ表銀座というかと言うと手軽で最も人気のあるルートで銀座のように賑わっているからです。燕岳までいっきに登り。そこから稜線づたいに大天井岳へ、キレットを超えて、槍ヶ岳を縦走し上高地に降りてくる。約3泊4日のコースを指します。最近、高齢者も多く山歩きを楽しむようになりました。北アルプスの入門編として最適なルートです。中房温泉から入山して約4時間30分登ります。すると稜線にたどり着き、燕岳の美しい尾根が見渡せます。初日は燕岳手前にある燕山荘に宿泊しても良いでしょう。燕岳は緑と土の茶色のコントラストが美しく、なだらかな女性的な山

です。2日目は稜線を縦走するルートになります。なだらかな起伏の少ない稜線です。大天井岳を經由して西岳ヒュッテまで楽に行くことができます。途中雷鳥に出くわすことがあるかもしれません。3日目は最終地の槍ヶ岳にまで縦走しヒュッテ大槍に宿泊です。4日目槍ヶ岳からは上高地に降りてくるのがよいでしょう。途中危険なところもありますが、3000m級の山々の醍醐味を味わうことができます。上高地までの下山ルートはなだらかで、途中から並行する梓川の川辺の散策は清涼感があり、山行の最後にふさわしく、満足感が味わえます。井上 靖の[氷壁]に出てくる前穂高の東壁を背後に上高地の河童橋が終点となります。初心者にとって最適のコースでアルプスの醍醐味を味わえる、人気のルートです。下界の喧騒から離れ、ストレス発散になること請け合いです。日々の仕事を忘れるためにも一度訪れてみてはいかがでしょうか。

(み)

ミニギャラリー3ヶ月

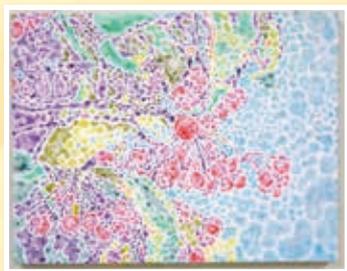
「和田奈緒美展」では、自分の細胞に感じる宇宙を表現され、色鮮やかな作品でした。宇宙を感じ、最近細胞をいろいろな形で描いています。

「浜田澄子展」では、ひかりを感じさせる美しい色彩が、人の心の奥深いところまで届き、その魂を癒し、幸せな気持ちにさせる作品でした。

「鹿島寛展」では、黄赤青の三原色を使い、繰り返し塗り重ねることで生まれ立ち上がる色彩を通して光を表現していました。

「どの作品も色彩が美しく、明るく幸せな気持ちになりました。」という感想がよせられています。なお、ミニギャラリーの展示内容は医療センターHPでもご覧いただけます。

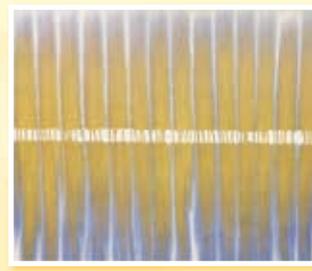
◆「和田奈緒美展」(5月)◆



◆「浜田澄子展」(6月)◆



◆「鹿島寛展」(7月)◆



編集後記

今夏、首都圏は水不足に見舞われている。空梅雨ばかりが原因とは言えないが、関東の水瓶であるダムの貯水量は、6月から7月上旬にかけて過去最低を記録した。国や自治体は節水と呼び掛けているが、今後給水制限などによる生活への影響がないことを祈るばかりだ。水不足の解消は、災害をもたらす台風頼みというのも皮肉な話である。

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦

編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180

☎048-287-2525(代表)

HP <http://kawaguchi-mmc.org>